

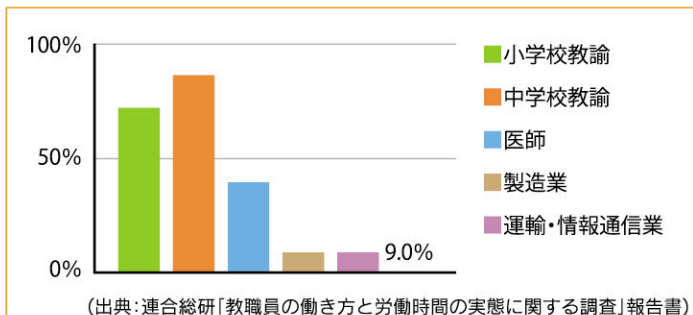
決算特別委員会 総会質疑

教職員の長時間労働の改善を！



世界中の教員で最も長時間勤務をしているのが日本の教員です。更に、2015年連合総研の調査によって、小中学校教員の7～8割が週60時間以上の過労死ラインで働いており、国内の他業種の中でも最も長時間労働をしていることがわかりました。

● 週当たりの労働時間が60時間を超える割合



今や、教員の長時間勤務は社会問題となっており、文科省も「教職員の働き方改革」を議論し、8月に緊急提言を提出しました。

緊急提言は、「校長及び教育委員会は、『勤務時間』を意識した働き方を進めること」として、自己申告方式ではなく、タイムカードなどによる勤務時間の客観的な把握や留守番電話の設置、部活動の在り方、夏休みなど長期休暇期間の学校閉庁日の設定などの他に、学校・教職員の業務改善を求めています。

小学校は2020年度からの新学習指導要領の実施で、英語学習とプログラミング教育が導入され、教員の負担感、多忙化に拍車がかかることは間違いありません。福岡市教育委員会としても、教職員の長時間労働の改善を早急に行うべきと質しました。

● 福岡市教職員勤務実態調査 (2014年実施)

	1日の平均在校時間 ※1日の勤務時間は 7:45	1日当たりの 時間外の勤務時間	1月当たりの 時間外の勤務時間 ※厚労省は 80時間以上を 「過労死ライン」
小学校教諭	11:13	3:07	62:20
中学校教諭	11:01	3:50	76:40
特別支援学校教諭	10:21	2:09	43:00

ひと月に20日間勤務したと仮定した場合、中学校では過労死ラインすれすれとなっており、25～26日勤務となっている実態からみると、福岡市でも過労死ライン越えは多数いると推測できます。

● 超過勤務を引き起こしている主な要因

小学校	教材研究・準備など授業関連
中学校	部活動関連
特別支援学校	教材研究・準備など授業関連

池田 勤務時間の適正把握のために、タイムカード管理を導入すべきと考えるが。

教育長 勤務状況を具体的に把握できることから、今後とも、「在校時間報告書」を活用していく。

池田 「在校時間報告書」で勤務状況の把握を進めるのであれば、教育委員会責任の下、全ての教職員の勤務実態を各学校長から提出させ、チェックすべき。

教育長 勤務時間を意識した勤務をするよう教職員による「在校時間報告書」の作成を徹底する。

池田 夏休みなど長期休暇に年休が取れるよう、「学校閉庁日」を設定すべきと考えるが。

教育長 教職員の健康保持の観点から、「学校閉庁日」の設定について検討する。

池田 他校との練習試合などで、土日の休養日が取れていない。行政主導で、全市一斉の部活動休養日の設定が必要と考えるが。

教育長 全市一斉の部活動休養日の設定は、生徒や教職員の健康保持の観点からも大変効果的であり、今後、学校現場の意見も聞きながら検討する。

池田 教員は「子どものために」という思いで自ら仕事を増やし、「何でも屋」になっている。専門性が発揮できるよう、大胆な業務改善が必要。ガイドラインを策定中だが、その進捗状況は？

教育長 ガイドラインの前提となる教員の負担軽減に向けた具体的な取り組み内容の検討を進めている。「業務改善のためのガイドライン」を策定し、教職員の長期間勤務の解消に取り組む。

「地域猫活動」は、地域コミュニティづくり!

猫が苦手な人も、大好きな人も、特に関心のない人も様々な価値観を持っている人が、共に気持ちよく暮らせる地域づくりが、地域猫活動の目的です。地域猫活動が始まって9年目となりますが、活動地域は2014年度をピークに減少しています。



その要因は、活動の啓発不足によるボランティアの孤立化や、エサ代等の負担が考えられます。また、公共施設内での「野良ネコ」問題もあることから、TNR活動や適正管理など具体的な方策の検討を求めました。

●地域猫活動の新規地域数と手術頭数

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
新規指定地域数	9	9	10	13	10	3
地域猫の不妊去勢手術頭数	130	341	312	436	388	128

池田 飼い主のいない猫を捕獲(T)して、不妊去勢手術(N)をして、元の場所に戻す(R) TNR活動後、ボランティア

グループがトイレやエサやりなど適正な管理をしていることを地域住民に周知することが必要。活動内容を示した看板設置をすべきと考えるが。

保健福祉局長 一定の啓発、監視効果はあると考えられるが、地域住民の理解や看板の設置場所の管理上の問題もあり、地域内で十分な協議が必要。

池田 ボランティアの負担軽減のために、猫に係るエサ代は予算計上すべき。

保健福祉局長 原則的に地域でまかなうものと認識。

池田 飼い主のいない猫の絶対数を減らすには、徹底したTNRが必要。捕獲した猫の手術を近隣の指定動物病院でできるなどシステム作りが必要。

保健福祉局長 他都市の状況を調査していく。

池田 「福岡市猫との共生ガイドライン」は強制力のないもの。「福岡市動物の愛護及び管理に関する条例」を見直しして、「地域猫活動」に関する市や市民の責務、予算の裏付けをすべき。

保健福祉局長 2019年度に予定されている動物愛護法改正の内容や、他都市の動向を注視しながら、**規制の在り方も含め、猫問題を解決するための方策について検討していく。**

いけだ良子、あっちでこっちで学び、政策提案へと!



7/2, 10/8 **政治塾「みずほ塾・福岡」**
女性の政治参画をめざして、3回シリーズで開催します。1回目は「女が政治を変えていく」、2回目は「共に生きられる政策—社会民主的政策の実現を!」講師は参議院議員 福島みずほさん。



7/20 **「朝倉災害母子支援センターきずな」の支援**
7月に発生した九州北部豪雨は大きな被害をもたらしました。被災した母子の避難所、女性ボランティア宿泊施設としては全国初。立ち上げにも関わり、今後の避難計画にも大いに参考になりました。



7/28 **石丸中央公園(仮称)ワークショップ**
西部市場跡地の一部に、地域念願の公園の新設が決まりました。2018年度から着工しますが、どんな公園にしたいか、公園で何をしたいかなど、意見交換しました。



8/5 **障がい児教育研究会でのしゃべり場**
保護者と教職員を交えて、障がい児教育の現状・課題を情報交換。悩みの相談も行っています。



9/7 **「みんなで里親プロジェクトって?」**
子どもが、大切な家族の住み慣れた地域との関係を維持できる。里親プロジェクト。里親って?カフェ
西区では、保護者の病気や出産、介護などで、一時的に養育ができなくなった時に短期間預かる「校区里親」を募集中。転校せずに大切な友だちや住み慣れた地域との関係を維持できる「校区里親」拡がって欲しい!



10/1 **「医療的ケア児親の会」発足**
6月議会「医療的ケア児への保育の充実」の質問をきっかけに、一人の母親の呼びかけで親の会が発足しました。「親が働くことを選択できる支援を!」行政と初めての懇談会も実現。



10/14 **「LGBTと制服」**
男女別の制服を着ないと学校に行けない現状があります。カミングアウトしなくても、安心して学校に来られる環境づくりが必要。選べる制服を!



毎月第3金曜日 **橋本駅循環ミニバス運行連絡会議**
試行運行の継続が決定! 本格実施まであと一歩です。12月からは、運行ルートの一部変更し、運賃も170円から200円となりますが、地域の移動手段として、成功させましょう!

**弁護士による
無料法律相談を
行っています**

- 日 時/毎月第4水曜日 17:00~19:00
- 場 所/池田良子事務所
弁護士:津留雅昭 市議会議員:池田良子

※どなたでも、お気軽にご相談ください。秘密厳守。
事前にお電話でご予約ください。

いけだ良子事務所

〒819-0043
福岡市西区野方2丁目13-3
tel:092-812-3447 fax:092-812-3449
http://www.ikedayoshiko.com
nukumori_anshin06@yahoo.co.jp

